

## プラントメーカーアンケート（調査計画概要）について

## 1. ごみ処理方式評価の流れ

ごみ処理方式評価は、図 1 のフローで予定する。

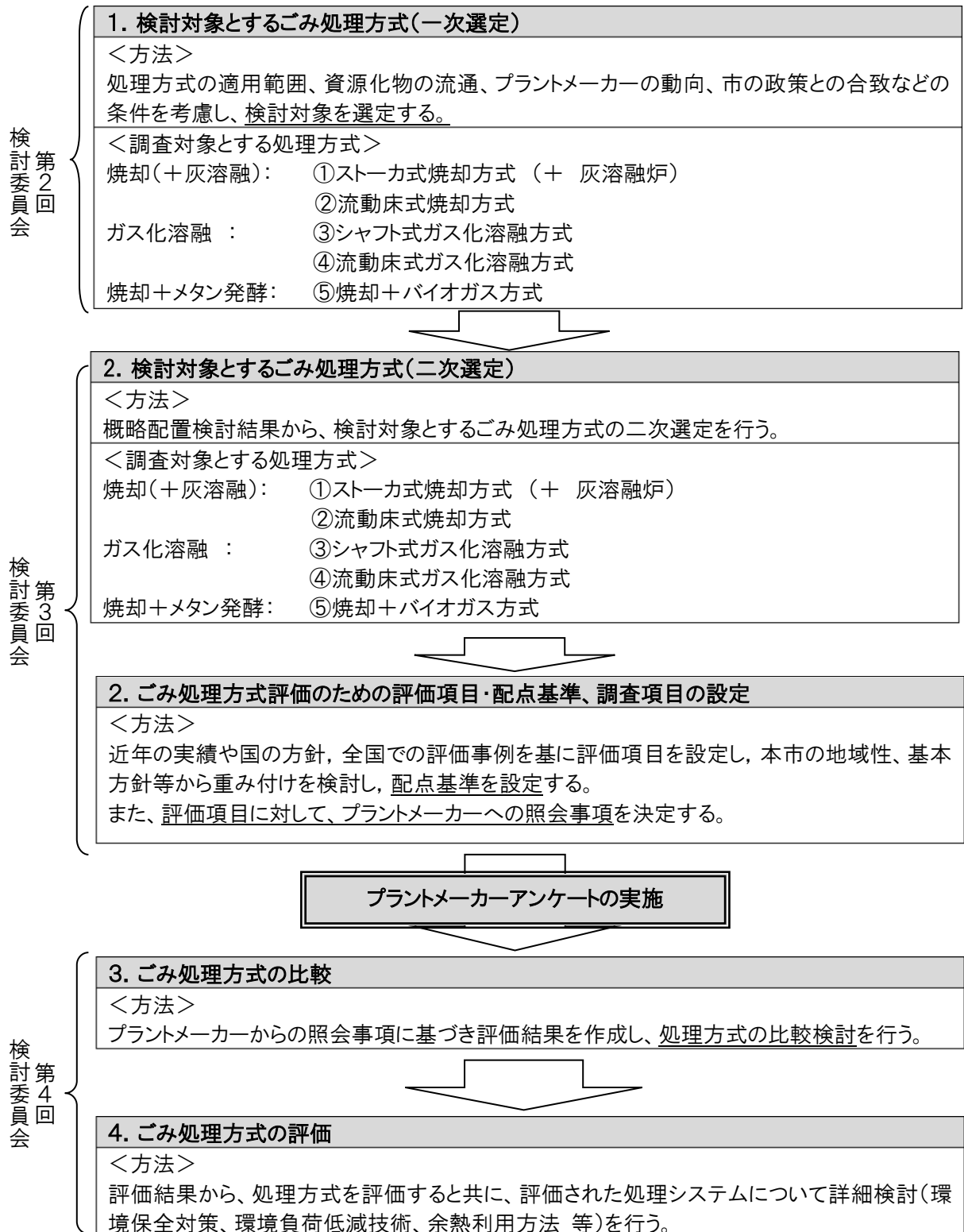


図 1 ごみ処理方式評価の流れ

## 2. 評価方法

### 2.1 評価基準の設定

評価は、公平性、客観性が担保されるよう、可能な限り定量評価を実施するが、数量的な評価が困難な項目については、文献等から一定のレベルを設定し定性的評価とする。また、評価項目に数量的な基準値等の客観的な指標がない場合には、方式ごとの相対比較により基準値等を設けて評価することとする。配点基準は、表 1 に示す 4 段階で評価する。

表 1 配点基準

点数	割合	算定例
◎	100%	5 点 × 100% = 5.00 点
○	50%	5 点 × 50% = 2.50 点
△	25%	5 点 × 25% = 1.25 点
×	0%	5 点 × 0% = 0.00 点

### 2.2 配点（案）

ごみ処理方式評価のための配点（案）は、本市の特性及び福島市あぶくまクリーンセンター焼却工場再整備事業基本構想策定基本方針から処理方式評価のための優先度を考慮し、表 2 のとおり設定した。

表 2 ごみ処理方式評価のための配点（案）

基本方針	優先度	配点（案）	配点の考え方
1. 安全・安心な環境にやさしい施設整備	1 位	55 点	日常発生するごみを適正処理する上で最も重要となる。
2. 循環型社会の形成に寄与する施設整備	2 位	15 点	エネルギーを有効活用し、周辺住民へ還元することが求められる。
3. 周辺との環境に調和した施設整備	3 位	10 点	迷惑施設として位置づけられるごみ処理施設を建設するにあたり、周辺環境、周辺住民への配慮は必須である
4. 市民との協働による施設整備	3 位	10 点	住民も使う施設であることから利用しやすい施設とする必要が有る。
5. 経済性に優れた施設整備	3 位	10 点	市の財政に寄与した施設である必要がある。

## 2.3 ごみ処理方式評価のスケジュール

ごみ処理方式評価のスケジュール（案）を表 3 に示す。

表 3 ごみ処理方式評価のスケジュール（案）

日程(予定)	委員会	検討内容	作業・評価
平成 30 年 2 月 21 日	第2回	検討対象とするごみ処理方式 の選定(一次選定)	委員会で決定済
平成 30 年 5 月 11 日	第3回	検討対象とするごみ処理方式 の選定(二次選定)	委員会で決定
平成 30 年 5 月中旬	-	委員会検討結果の反映	事務局で資料修正
平成 30 年 5 月下旬	-	メーカーアンケート調査票 評価項目に対する評価基準	<u>委員へ持ち回りで説明・ 確認・決定</u>
平成 30 年 6 月上旬	-	メーカーアンケート調査開始	事務局で調査表等作成
平成 30 年 7 月上旬	-	メーカーアンケート調査回答期限	事務局で作成
平成 30 年 7 月下旬	-	メーカーアンケート比較表事前確認	事務局で比較表等作成 <u>委員確認</u>
平成 30 年 8 月上旬	第4回	ごみ処理方式の比較 ごみ処理方式の評価	委員会で評価
平成 30 年 8 月下旬	-	委員会検討結果の反映	事務局で資料修正等
平成 30 年 9 月下旬	-	ごみ処理方式評価結果の決定	委員へ報告

## 2.4 評価項目の設定

福島市あぶくまクリーンセンター焼却工場再整備事業基本構想策定基本方針に基づき、処理方式評価のための考え方を、表 4 のとおり抽出し、評価項目（案）とメーカーアンケート設問（案）を表 5 のとおり設定した。

### <前提条件>

- I. 本施設の施設規模は約 200t/日を予定している。本アンケートにおいては、180～220t/日の納入実績に基づき回答を得ることとする。
- II. 用役量等については、180～220t/日の納入実績に基づき“ごみ t 当たりの値”の回答を得る。

表 4 処理方式選定のための考え方の抽出

基本方針		処理方式選定のための考え方の抽出
1. 安全・安心な環境にやさしい施設整備	(1)最新技術の導入も検討し、安全かつ安定的で衛生的な処理が行える施設とします。	○
	(2)高度な公害防止設備を設置し、市民が安心して生活できる生活環境を保全します。また、温室効果ガスの発生を抑制し、自然環境への負荷を低減します	○
	(3)災害に強く長期間の稼働に耐えうる施設とします。	○
2. 循環型社会の形成に寄与する施設整備	(1)施設で発生する余熱を積極的に回収し、発電等による有効利用を図ります。	○
	(2)既存の余熱利用施設との連携を、円滑で効率的なものとし、安定した熱供給を行います。	処理方式によらないため、評価項目として抽出しない。
	(3)施設で発生する焼却灰の減容化・再資源化を検討し最終処分場の延命化を図る施設とします。	○
3. 周辺環境と調和した施設整備	(1)周辺環境と調和した色彩、デザイン等により、景観に配慮した施設整備を図ります。	○
	(2)利用者の立場に立った小動物焼却施設の整備も図ります。	処理方式によらないため、項目として抽出しない。
4. 市民との協働による施設整備	(1)地元住民との協議・情報共有により、信頼関係に基づく施設整備を図ります。	処理方式によらないため、項目として抽出しない。
	(2)利用者をはじめとした市民の意見を反映し、施設の動線・配置計画を検討し、安全で利便性の高い施設整備を図ります。	○
	(3)既存施設の内、建設予定地に配置されているヘルシーランド福島のパークや屋内ゲートボール場の再整備も検討します。	処理方式によらないため、項目として抽出しない。
5. 経済性に優れた施設整備	(1)過大とならない施設規模の検討や、効果的な設備の選定を行い、費用対効果の高い施設とします。	○
	(2)建設費及び維持管理費を含めた全体的な費用の削減を図ります。	
	(3)効率的な管理運営により、運営費の削減を図れるよう検討します。	
	(4)国の交付金制度を最大限活用できる施設の整備を検討します。	処理方式によらないため、項目として抽出しない。

表 5 処理方式評価のための評価項目（案）とメーカーアンケート設問（案）

方針	目指すべき施設像	評価項目(案)	メーカーアンケートの設問(案)	配点		
1.安全・安心な環境にやさしい施設整備	(1)安全・安定的かつ衛生的な処理が可能な施設	① 建設実績	なし(事例調査で評価)*	5	30	55
		② 事故トラブル事例	なし(事例調査で評価)*	5		
		③ 停止日数	補修に伴う炉の停止日数	5		
		④ ごみ質変動の範囲	本方式における、ごみ質変動の対応範囲(〇〇kJ/kg～〇〇kJ/kg)	5		
		⑤ 処理不適物の範囲	処理不適物の種類	5		
		⑥ 掘り起こしごみの処理実績	実績及び割合(施設規模に対して、〇〇%)	5		
	(2)高度な公害防止技術を設置し、生活環境の保全が図れる施設	① 公害防止基準の遵守	本施設の公害防止基準値の遵守は可能か	5	20	
		② 排ガス量	ごみ tあたりの排ガス量	5		
		③ 排水量	ごみ tあたりの排水量	5		
		④ 温室効果ガス発生量	ごみ tあたりの温室効果ガス発生量	5		
	(3)災害に強く、長期間の稼働に耐える施設	① 連続稼働日数	最大の連続稼働実績	5	5	
2.循環型社会の形成に寄与する施設整備	(1)余熱を積極的に回収し、有効利用可能な施設	① エネルギー回収量	ごみ tあたりのエネルギー回収量	5	10	15
		② 用役使用量(助燃剤、電力、用水使用量等)	ごみ tあたりの用役使用量(助燃剤、電力、用水、その他)	5		
	(2)焼却灰の減容化・再資源化が図れる施設	① 焼却灰等の資源化量	ごみ tあたりの主灰、飛灰の資源化量 ※スラグ等を除く	5	5	
3.周辺環境と調和した施設整備	(1)景観に配慮した施設	① 建物高さ	本用地で配置した場合(施設規模 200t/日)の建物高さ	10	10	10
4.市民との協働による施設整備	(1)利用者の意見を反映した安全で利便性の高い施設	① 建築面積	本用地で配置した場合(施設規模 200t/日)の建築面積(※配置図を添付)	10	10	10
5.経済性に優れた施設	(1)費用対効果の高い施設	① 建設費	ごみ tあたりの建設費	5	5	10
		② 維持管理コスト	ごみ tあたりの維持管理費	5	5	
合計				100		

「\*」は文献調査により行う。